

●図書館の管理と運営について

団員 向田 将央

■サンフランシスコ WESTERN ADDITION 分館

(JAPAN TOWN にある公共図書館)



(日本語で書かれた案内板)

入室した瞬間、鳩の貼り絵が目に飛び込んできました。鳩には日本語で「平和」と書かれ、その隣には「日本語で読み聞かせ」のご案内があり、さすが北カリフォルニア最大の日本語のコレクションを持つ公共図書館というのが直ぐに理解出来ました。

酒井スザンさんという親切な日本人スタッフさんに現地を案内していただきました。当図書館はカリフォルニア在住の方であれば、誰でも無料で図書館カードを作成できるとのことでした。

書籍については、最新の日本語書籍、また、鬼滅の刃や進



(スタッフの酒井スーザンさん:中央)

撃の巨人など人気の漫画はもとより、数々のベストセラーや受賞作品、絵本をはじめとした児童書も充実していました。

また、雑誌や新聞、人気の音楽CDや映画DVDも貸出可能になっていました。

更には、Wi-Fiも完備しており日本語対応のパソコンで、ゲームや勉強ができるスペースも完備され、日本語読書会、折り紙や親子で日本語と触れ合う等、多数の催しをしており、過去には日本映画鑑賞会や餅つきなどもしていたとのことでした。



(パソコンコーナー)

■ サンフランシスコ公共図書館 (San Francisco Public Library)

図書館の職員のだりー ゴーヤルさんに現地を案内していただきました。



(吹き抜けの空間)

サンフランシスコ公共図書館は1879年(明治12年)に初めてオープンし、1995年(平成7年)に現在の建物が建てられました。6階建てで地下室もあります。

外観は周囲の歴史的な建物に溶け込むようなクラシックなデザインですが、内部は近代的でガラスの天窓を持つ大きな螺旋階段と吹き抜けの空間となっており、まるでロゴマークにもある大きな貝の中に居るようです。

また、視覚障害者、聴覚障害者が安心して

利用できる専用ルームも設けていました。

更には中・高校生が足を運びたくなるよう、書籍だけでなく缶バッジが作れたり楽器の練習が出来たり様々な取組みを行っていました。

カリフォルニア州在住であれば誰でも無料で図書館カードを作成できます。

サンフランシスコ公共図書館に書籍が何冊あるのかは認識していないとのことでしたが、3階の書籍フロアだけで50万冊あるとのことでした。3階のフロアは国際センターがメインとなっており、日本の書籍をはじめ、アフリカ系アメ



(3階 国際センター)

リカ人センター、中国語セ

ンター、フィリピンセンター、その他にもゲイ&レズビアンセンターや人文科学センターなどが充実していました。その中で最も貸出率が多いのは中国語センターとのことでした。

抱える課題としては、ホームレス支援のアプローチの見直しなどが挙げられます。聞くところによるとホームレスが度々トイレでシャワーを浴びたりするため男女それぞれのトイレに警備員も常駐していました。

多様な背景を持つ利用者に関する課題やホームレス問題の研究などは、今後課題として挙げられるようです。

また、サンフランシスコ市全ての市民が利用可能なため多様なコミュニティがとれることから、全利用者が安全で快適に過ごせるよう努めるために「利用者行動規程」を定めており、違反を level 1～level 3 まで設け、違反の重大さ

に合わせて利用禁止期間を1日～1年まで定めていました。

図書館の指定管理者制度には、経費の増加や専門的知識の欠如、指定管理者についての認識不足などの問題もあるようです。

現在、文教消防委員会の調査研究テーマでも「公立図書館の現状認識と今後の在り方について」を掲げ考えていると思います。

本市にとって、図書館が地域住民に最も身近で利用頻度の高い公共施設であり続けるためにも、今後デジタル技術が急速に進み市民のライフスタイルもめまぐるしく変化していく中で、本市図書行政もしっかりついて行かなければなりません。

未来を見据えて本市の図書行政にはどういったものが必要なのかニーズをしっかりと捉えて、老若男女が通いたくなる図書館づくりを構築していきたいと思います。